

## 口は健康のもと Vol.135

### 歯科疾患と皮膚疾患 ～中年以降の女性は要注意～

歯とは別の部位に症状が発現して原因を付き止めることが難しい病気の一つに歯性病巣感染（しせいびょうそうかんせん）という疾患があります。

虫歯や歯周病、歯の根の炎症などが原因となって手足に症状が発現する掌蹠膿疱症（しょうせきのうほうしょう）があります。両側の手のひら（手掌）や足の裏（足蹠）に小さな水ぶくれが生じ、次第に膿疱に変化します。その後、膿疱はやぶけてしまい、ジクジクした状態からかさぶたとなってはげ落ちます。最初のかゆく、良くなったり悪くなったりを繰り返します。この病気は溶連菌感染や抗原によって作られた抗体が皮膚の角質細胞を抗原と間違えて攻撃してしまう免疫応答の異常が原因のひとつです。

他に、両足の前面、膝から足首にかけて硬いしこりを有する小紅斑が多発し、圧迫すると痛みを伴い、38℃程度の発熱と全身の倦怠感や関節痛など伴う結節性紅斑（けっせつせいこうはん）や唇が厚ぼったくなり、赤味を帯びてむくみ、ゴムのようになる肉芽腫性口唇炎（にくげしゅせいこうしんえん）があります。

これらの多くは中年以後の女性に見られるようです。

心配なことがありましたら、かかりつけの歯科医師にご相談下さい。



奥羽大学歯学部附属病院  
総合歯科 准教授 佐々木 重夫